

しゅんめ

東雲会会報 第20号

松江東高等学校東雲会事務局
2022年3月1日付発行

題字 19期卒業生 加藤 愛



目次

現在の取り組み	2
校長挨拶	3
生徒会長挨拶	3
部活動特集	4
卒業生に聞いてみました!	6
会長挨拶	8
お知らせ	8
LINE公式アカウントはじめました	8

現在の取り組み

松江東高校は令和元年度から文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の採択を受け、島根大学や松江市内の各種団体・企業と連携した実践的な課題解決型学習に取り組んでいます。

東高独自の設定科目も始まり、さらに学校の魅力化を進めていることは昨年度の会報でもお知らせをしました。加えて今年度からは、3年生文系の選択科目として、【EAST地域探究】という授業が新たに始まりました。また、松江商工会議所と共に【キラ星共創プロジェクト】という活動を行い、さらに地域に踏み込んだ課題解決に取り組みました。

1

EAST地域探究

1、2年次において「探究活動」の“いろは”を学んだ生徒が、「地域」をテーマとした自由探究を5ヶ月間行いました。最終学年として「企画」「関わる相手」「アポ取り」「修正」など探究活動に必要な全ての過程を生徒自身が運営しました。そのため「中学生に探究授業を行う」「飲食店を助けるための方策を行政に提言」「ライブハウスのイベント立案」などテーマは多岐にわたりました。活動を進める内に、自分の将来像を考え直す生徒や、「改めて島根のために働きたい」と考える生徒が出てきました。高校生であっても、もがきながら探究した力は「地域」や「社会」において活躍できる可能性を強く感じました。



2

キラ星共創プロジェクト



吹奏楽部 堀川遊覧船での演奏



「絵本」プロジェクト



発表会の様子



当日は多くの参加者がありました

今年度、松江商工会議所と協働し「地域を笑顔にする」というテーマでプロジェクトを行いました。新聞等で取り上げられたものもあり、また地域の皆様にたくさんのご協力・ご参加いただいたものもあり…本校の生徒たちが地域の課題に向き合い、また地域のあたたかさにふれることが出来る活動となりました。

また、プロジェクトの伴走者として、卒業生を中心とした大学生たちが力を貸してくれました。先輩として俯瞰した視点で助言してくれたり、ともに悩みながら活動を進めていってくれたり。本校生徒にとって卒業生とのつながりを感じることが出来る機会ともなりました。

生徒たちのプロジェクトは、今後行政機関等での事業化や、企業による実際のビジネス等につながっていく可能性も出てきています。このプロジェクトの今後にも、ご期待ください。この場を借りて、ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。



ご挨拶

校長

田中 正樹

今年度着任しました校長の田中です。東雲会の皆様には、日頃より本校教育活動にご支援・ご協力いただき、心より感謝申し上げます。コロナ禍も2年目になり、学校教育活動も感染症対策を講じながら実施している状況です。部活動においては、県総体が2年ぶりに行われ、中国大会や全国大会に出場した部もあります。

さて、本校は文部科学省の指定を受け、新しい形の地域連携を進めています。今年度は松江商工会議所の主催で、本校限定の実践プロジェクト「キラ星共創プロジェクト」が実施されましたが、主催者の想定を上回る10組の生徒が応募し、皆、「地域を笑顔に」という思いのもと、地域の人と協力しながら実践につなげてくれました。この活動には、大学生が伴走する形で支援してくれまして、本校卒の大学生もたくさん関わってくれました。本校が進めてきた地域連携が、大学生を巻き込んだ地域連携、更に新しい形の高大接続へと拡がりつつあります。

今後も、本校生徒の成長のために、皆様方の力をお借りして、新しい形の地域連携を進めて参りたいと思っていますので、引き続きご支援・ご協力いただきますよう、お願い申し上げます。



生徒会長挨拶

37期

藤田 綾乃

今年は昨年に比べて様々なことが少しずつ前に進み出した年でした。しかしその一方で、中々元に戻らない「当たり前」や変化した「当たり前」もあり、もどかしさを感じたこともありました。そんな状況でも、多方面で活躍しておられる先輩方の姿を拝見したり、探究活動を通して地域の素敵な大人の方と出会ったりする中で、できないことを数えるのではなく見方を変えて挑戦すればできることは無限にあるということを知りました。そして各々が挑戦した結果、それまでは想像できなかったような幸せを感じ、これから歩いていく未来に希望を持つことができました。

多くの人に支えられ、仲間と切磋琢磨しながら、東高で学びを深められたことに37期生一同心より感謝しています。だからこそ今度は、そのつながりを大切にして、東高の次の世代へと恩送りをしていけるように努めていきたいです。

最後に、東高出身と言えることを誇りに思います。これからもよろしく申し上げます。

アーチェリー部 主将 田村 リの

昨年は、新型コロナウイルスの影響で、大会の中止や練習ができない日が続きました。

今年度は、練習も大会も少しずつではありますが再開されるようになりました。高校総体も予定通り開催され、部員一人ひとりがこれからの目標や課題を見つけるよい機会になったのではないかと思います。

今年度を振り返り、一番印象に残っていることは、福井県で行われたインターハイに出場したことです。私たちにとっては初めての県外での大きな大会で、その緊張感や大会の雰囲気や圧迫感に思わぬようにいかない場面がたくさんありました。しかし、来年こそはという闘志も湧いてきました。この経験を活かし、来年のインターハイでは前回よりもよい結果を報告できるよう日々練習に取り組んでいます。



部活動特集

ボート部 主将 田中 晃平

僕が2年生のときの島根県高校総体は新型コロナウイルスの影響によって中止となり、3年生となって初めて県総体のレースを行いました。この大会にはやりきれない気持ちのまま引退となった先輩たちの思いを汲み、後悔のないレースにしようと決めレースに挑みました。

結果は男女あわせて6種目中3種目でインターハイの出場権を手に入れました。この大会で3年生の半分は引退となりましたが、インターハイに出場するメンバーは引退した3年生の分も頑張ろうと練習に励みました。

インターハイでの勝利のため、夏の厳しい練習を乗り越えむかえた本番。2度目の全国大会、負ければ引退という、今まで感じたことのない緊張を感じました。そしてレース本番、僕は今まで公式レースで大きな失敗をしたことがなかったのですが、インターハイで初めてレースで大きな失敗をしてしまいました。結果は3種目出場しましたがすべて予選敗退となりました。負けた時「もう少しやっていたら結果が変わったかもな」と思いましたが、これまで練習はやってきたので後悔はありませんでした。

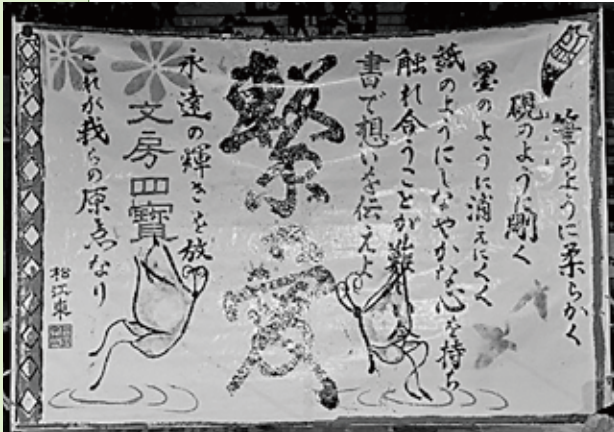


つらい練習で何度も辞めたくなることはありましたが、それでも続けることができたのは「ボートが楽しかった」「勝ちたい!」などありますが、一番は一緒にやっている仲間がいたからだと思います。つらいとき互いに応援し、励ましあい、一緒に喜んだ仲間が近くにいたからこそ続けることができました。

3年となって仲間の存在の大切さをより実感することができました。

今年は、コロナウイルス感染拡大が懸念されていましたが、愛媛県四国中央市で全国書道パフォーマンス甲子園が開催されました。昨年の大会中止により先輩と共に全国の舞台を目指すことが出来ず、特に3年生は沢山の不安と緊張の中での大会となりました。しかし、お互いを支え合いながら作り上げてきた6分間を全国の舞台で最高の仲間たちと披露できたこと、全国6位という輝かしい成績を残すことが出来たこと、本当にうれしかったです。後輩たちには3年生の経験をもとに東高らしいパフォーマンスで更に強くなって欲しいと思います。

最後になりましたが、応援し支えてくださった先生方、保護者の皆様、先輩方、本当にありがとうございました。



吹奏楽部 部長 谷口 佑有

今年は、全日本吹奏楽コンクールが2年ぶりに開催され、島根県大会では小編成の部でゴールド金賞をいただきました。部員全員で金賞を目標に練習を重ねてきたため、本当に嬉しく、とても濃い夏になりました。

また、今年はコンクールだけでなく、地域との関わりも大切にし、堀川遊覧船上や白瀬公園でも演奏をしました。自分たちで計画し、準備を進める中で大変なこともたくさんありましたが、やりとげたときの達成感は大きく、実際に聴いてくださった方の「ありがとう」という声をきいたり、笑顔を見て改めて音楽の素晴らしさを感じた演奏会となりました。

これらの経験で得たものは大きく、自信にも繋がりました。ここで学んだことを生かし、さらなる向上を目指していきたいと思います。



株式会社みしまや 代表取締役社長 三島隆史 様 (8期)

◀◀◀ インタビュアー 東高生徒会執行部 (23R 加賀咲良 24R 梶野こなつ 25R 渡野恭 26R 井原郷志 バラックシェイ)

▶ お仕事について

梶野：会社を運営していく中で一番達成感があるというか、一番嬉しいなって思う時はいつですか？

三島：会社が期待している以上のことを店の人がやってくれた時かなという風に思います。期待を超える努力をされているときはすごくうれしくてみんなで「あぁいいねー」という話をしたりはします。そんなことがいっぱいあるので、日々楽しくやっています。

井原：自分自身決断をする時に渋っちゃうところがあって、これだ！って決めたことをすぐに言ったりすることがあんまり得意じゃないんですが、社長さんで何か大きな決断をするときに意識していることってありますか？

三島：自分が決めたことだったら大丈夫と思ってやることですね。だから一晩悩んで決めたら、もうそれで行こうと思ってひとまずやってみて、やってみてだめだったらやめることだと思います。一生懸命考えて決めたことをやりながら、だめだったら謝ればいいと思って頑張ってください。



▶ 高校生活について

加賀：高校生のうちにやっておいた方がいいことって何かありますか？

三島：学校案内を見させてもらったんですけど、今は社会とのつながりも増えていると思います。なので、そこでいろんな仕事があることに触れるといいかなと思います。自分はたまたま家が事業をやっていたから、経営学部って思っちゃったんですけど、例えば法学部に行ったら法律家にしかならないとかそんなもんじゃないから。ぜひいろんな仕事に触れて自分の興味に近いのはどこかなって、そんな観点で学校が催される機会はなるべく活かされた方がいいと思います。



松江市福祉事務所 安達研斗 様 (23期) ◀◀◀ インタビュアー 21R 橋本那津 和田颯太

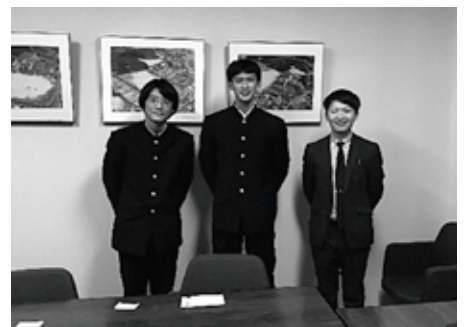
▶ お仕事について

和田：公務員になろうと思ったきっかけはいつ頃ですか？

安達：高校出てから山梨県の大学に進学したんですけど、高校生の時はもちろんその時も公務員になろうという強い思いはなかったです。ただ、県外に出てみて外から松江を見てみるとやっぱりいいとこだなと強く感じて、地元に戻って地元で貢献できる仕事を考えた時に地方公務員かなということで市役所を選択肢に考えました。

橋本：3年に1回ぐらい部署が変わると聞きましたが、やっぱり大変ですよ。どうやってそれをのりきっていましたか？

安達：異動ありきの世界なので、引継ぎや研修といった制度も充実しているので、あんまりそれに関して心配する必要はないかなとは思っています。ただやっぱり異動して最初はわからないことばかりなので、勉強は必要になりますね。社会人になってからも勉強は必要なんだなっていうのを日々痛感しています。



▶ 高校生活について

安達：東高に行きたいというのは何か理由があったんですか？

和田：東高にはハンド部があって、それが楽しそうだなって思ったのと、修学旅行で東京に行けるというので楽しみに来たんですけど、ちょっとコロナでなくなってしまって、楽しみがなくなってしまった(笑)

安達：今修学旅行があるんですね。自分の時はなかったです(笑) 遠足で蒜山高原センターとかに行った記憶はありますが…あとスキー合宿も1年の時に大山に行っていましたね。

やっぱり高校の時の友達っていまだに付き合いのある人いっぱいいるし、それこそ一緒に市役所に入った同級生も何人もいて高校の友達はいいなと思います。



社会人として活躍されている先輩まで…
本校生徒がお話を伺いました！

島根大学 法文学部 三好亜美 さん (34期) ◀◀◀ インタビュアー 21R 津森研吾 中西凜 22R 成相友優 平野珠羽

▶ 大学について

津森：島根大学のいいところは何ですか？

三好：アットホームなところですね。大学の規模も大きくないので、生徒同士もすぐ知り合いになれます。学園祭でもたくさん知り合いが出店していてそれに行くって感じですね。また、生徒と教授の距離感も近いのいいところだと思います。

成相：海外留学をしている人は多いですか？

三好：最近ではコロナの影響でないですが、以前はシドニーやアメリカに留学している人がいました。英語圏だけでなく、中国や韓国、フランスに行っている人もいましたね。まずは大学の長期休みのときに短期留学して、海外のことを好きになった人が長期留学もするという流れですね。

▶ 高校生活について

中西：大学生になった今、高校生のうちにもっとこれをしておけばよかったというものがありますか？

三好：“英語”ですね。大学に入学してから必ず講義で学びますし、留学生ともコミュニケーションや就職活動など幅広い場面で必要になってきます。大学に入学してからでもいいのかもしれませんが、高校のうちにもっとしておけばよかったと。英語の勉強と言うより英語を好きになっておけばよかったですね。

あとは、もっと写真を撮っておけばよかったですね。大学に入学してからいろんなことが起きるのでどうしても楽しかったはずの高校生活のことが忘れられていきます。友達のことや教室の風景など思い出を残しておくことは大切だと感じますね。



松江総合医療専門学校 荒木美結 さん (34期) ◀◀◀ インタビュアー 21R 安達萌 25R 大石達也

▶ 専門学校について

安達：専門学校での勉強で大変なことは何ですか？

荒木：覚えることが多いことですね。解剖とか人体についてなどたくさん覚えないといけないことがあるので、入学したらまずこの壁を乗り越えないといけないですね。けど、高校の時から英単語など覚える練習をしてきたことが生きてきていると思います。

▶ 高校生活について

大石：看護医療系に進んでいく上で、どのような知識や力を身につけていく必要がありますか？

荒木：高校のうちに生物を好きになっておくとなら役に立ちますね。ホルモンや免疫、心臓の構造などの知識については頻出なので、なんか見たことあるとならだけでも全然違うと思います。



あとは分からないことや困ったことがあった時に、“分かりません” “教えてください” と自分から言うことができる発信力があるといいと思います。実習などで看護師さんや先生になにか聞きたいとき、どう聞いたらいいだろう、これ聞いてもいいのかなと思うタイミングがあります。できないなりに積極的にやろうとする姿勢が相手にも伝わるので、高校のうちに分からないことを先生に聞いたりして練習するべきですね。



会長挨拶

東雲会会長

物部 伸吾(2期)

同窓会員の皆様には、益々活躍のこととお慶び申し上げます。
また平素は母校へのご支援、並びに同窓会活動へのご賛同ご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、新型コロナウイルス感染拡大から3年が経ち、withコロナのもとで我々を取り巻く環境はますます変化しております。

個人的にはコロナ禍による混沌とした今こそ、スピード感ある大きな変化が求められていると感じており、東雲会も新時代に対応し変革を恐れず積極果敢にチャレンジしながら、組織の活性化を図ることが重要と考えております。これも偏に、皆様の協力があればこそ実現するものと信じております。

つきましては、昨年の総会も一昨年に続き残念ながら中止となりましたが、今年度は6月18日(土)に感染防止に努めながら

開催する方向で準備を進めております。

ワクチン接種も3回目が始まり、平穏な生活に戻る日々が遠くないと願いつつ、皆様にお会い出来ることを心より楽しみにしております。

私が入学した当時の『東高は新設校』と言われていたのは過去のこととなり、本年で創立39年を迎え多くの伝統を積み重ねてきた高校となって参りました。巣立った卒業生は1万人を超え、多くの方が各方面で活躍をされておられ、その便りを耳にする度、我がことのように誇らしく本当に嬉しく思います。

例えて言うなら1期生からこの春卒業する37期生が縦の糸、各期生の横の繋がりが横の糸、これからも無限に続いていくようにしっかりと丁寧に紡いでいながら、広くて強い東雲会の絆になることを切に願います。

最後に、来年の2023年10月には創立40周年記念式典が開催される予定です。

同窓会員の皆様で、この40年間の思い出と母校への感謝と共に、東雲会と皆様の益々の発展を願い更なる結束を高めて参りましょう。

お知らせ

寄付金報告

令和3年度の東雲会予算(皆さまの寄付金)にてテント2張り(簡易テント1張り)を購入させていただきました！
簡易テントは地域での活動にて活躍する予定です。
ありがとうございました。



お知らせ

2022年6月18日に
総会を開催します！

毎年6月の第3土曜日に開催してまいりました東雲会総会。コロナの影響でなかなか開催ができずにいましたが、2022年6月18日に2年ぶりの開催が決定しました！

※懇親会はその時の社会情勢により決定致します。詳細は東高HPをご覧ください。

島根県立松江東高等学校同窓会 (しののめ)

LINE 公式アカウント はじめました。



どちらかの方法で友だち追加してください

◀◀◀ QRコードを読み取る

ID検索で @831pycep を検索 ▶▶▶

ID

電話番号

@831pycep



同窓会総会・懇親会・会報情報等を配信します！

問い合わせ先

東雲会事務局 佐藤秀人(14期) ☎ 0852-27-3700 (本校)

メールアドレス ✉ shinomekaizimukyoku@gmail.com

学校HP 🌐 <https://www.matsuehigashi.ed.jp/>

住所変更があった際は事務局までお知らせ下さい